

ブルーギル

目科名：スズキ目サンフィッシュ科
学名：Lepomis macrochirus
原産地域：北アメリカ東部

【どんな被害を引き起こすのか】

生態系：在来水生生物の駆逐

- ・幅広い食性のために、水生生物全般を食べる

産業：漁業への被害

- ・水産有用種への食害
- ・漁業操業時の混獲被害

【未成魚】

未成魚の期間は約2年
(1年で全長5cm、2年で8cmに達する)



未成魚は体高がやや低い

体側に7~10本の
暗色横帯がある

産卵期のオスは、顎に
淡青色の帯、腹部に黄
色からさび朱色の婚姻
色が出る

最大全長 30cm

【成魚】



成長すると体高が高くなる



成魚になると体色が
濃灰褐色から暗褐色
に黒ずみ、横帯が不
明瞭になる

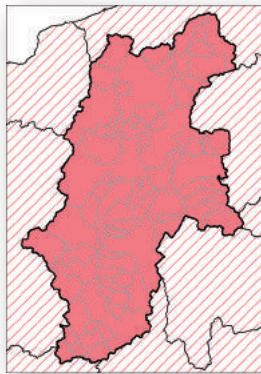
【どこまで広がっているか】

長野県では

- ・諏訪湖、野尻湖、仁科三湖等の
止水域を中心に、全域のため
池、接続する河川に広く分布

全国では

- ・1960年にミシシッピ川産の
個体が導入され、1970年代
から意図的な放流で急速に分
布が拡大
- ・現在は、全都道府県に定着



2019年現在
■ 定着 ■ 一部地域に定着

【生息場所・食べ物】

- ・湖沼やため池、河川等に生息
- ・水草の繁茂する場所を好む
- ・オオクチバスやコクチバスと比べて、群れをつくりやすい
- ・非繁殖期は、倒木や水草等の障害物のまわりに群れる
- ・群れの形成は繁殖期の12月で、水深1m前後の平坦な砂礫地にオスが産卵床を作り、そこにメスも集まる
- ・雑食性で、魚類(特に魚卵)、昆虫類、動物プランクトン、貝類、植物等を食べる

【生活史】

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px;">成魚</div> <div style="flex-grow: 1; text-align: center;"> <div style="border-top: 2px solid blue; width: 100%; height: 10px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="display: flex; justify-content: center; align-items: center;"> <div style="width: 20%; border-left: 1px dashed black;"></div> <div style="width: 40%; border-left: 1px dashed black; border-right: 1px dashed black; text-align: center;"> <div style="border-bottom: 1px solid blue; width: 100%; height: 10px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="display: flex; justify-content: center; align-items: center;"> <div style="width: 20%; border-left: 1px dashed black;"></div> <div style="width: 40%; border-left: 1px dashed black; border-right: 1px dashed black; text-align: center;"> <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 0 auto;">仔魚 稚魚</div> </div> <div style="width: 20%; border-left: 1px dashed black;"></div> </div> </div> </div> </div> </div>											
<ul style="list-style-type: none"> ・最長寿命は10年 			<ul style="list-style-type: none"> ・岸の近くの砂礫底にオスが掘ったすり鉢状の産卵床に、メスを呼び入れて産卵させる 			<ul style="list-style-type: none"> ・1つの産卵床に産み落とされる卵数は最大で20,000粒ほど ・卵と仔魚は、オスに保護される 					

【防除方法】

特定外来生物ブルーギルの生きたままの運搬は禁止されています。
捕獲したら、陸上に上げる、土に埋める等、その場でしっかり殺処分しましょう。

釣りて捕獲 繁殖を抑制する



● 釣りて捕獲する

- ・ 餌釣り、ルアー釣りて捕獲する

● コロニー（群れ）を狙って釣りて捕獲する

- ・ 市販のシママミズやプラスチックワームを用いた釣りてが効果的で、同じ場所て何尾でも釣れる
- ・ 連続の釣りてで釣れなくなる場合は、別の餌を用いたり、時間をおいて釣ったりするとよい
- ・ 産卵コロニーでは底部てオス、表層から中層てメスが捕れる

釣った魚は水中にリリースしないことが重要です。しっかり処分しましょう。

捕獲する 根絶を目指す

● カゴ網等で捕獲する

- ・ カゴ網て捕獲する
- ・ 電気ショッカーボードて捕獲する（要特採）

● ため池の水を抜く（在来水生生物に十分な配慮を！）

- ・ 小規模な池等てあれば、水を抜いての捕獲が可能
- ・ 水を抜いたあとは、しばらく干す
- ・ 水量を減らして、水温を高くすることで死滅させることも可能
※所有者、管理者との相談が必要
※作業前に外来種が流出しない対策をすること



【カゴ網】

ブルーギルやオオクチバスが物陰に隠れる習性を利用したもの。水中に沈めておき、一定時間後（概ね2～3時間後）に引き上げる。大型の個体も捕獲可能。春先から夏場にかけては岸沿いで、冬場はやや深い所に設置すると捕獲効率上がる。

漁具漁法によって必要な手続きや体制があります

- ・ 漁具の使用は、「長野県漁業調整規則」に従うこと
- ・ 禁止事項の一部を特別に許可する特別採捕許可（特採）の申請が必要な場合もある
- ・ 漁業協同組合と調整が必要な場合もあり

どのような捕獲ができるか、まずは相談を！

- ・ 漁業調整規則や申請についての相談先
 - ▶ 各地域振興局 農業農村振興課
 - ▶ 県庁 園芸畜産課 水産係
- ・ 漁法や場所についての相談先
 - ▶ 県水産試験場

次世代を絶つ 繁殖を抑制する

● 卵を駆除する

- ・ 産卵床（径40～100cmの円形）の卵とそれを守るオス親を駆除する
- ・ 産卵床はオスによってきれいに掃除されているため識別可能

● 産卵適地を網等で囲う

- ・ 産卵期、産卵場所をネット等（目合いにより特採が必要）で囲い、親魚を捕獲かつ産卵床の形成を阻止する
- ・ 池やダム湖等では水位を低下させる

● オス親を捕獲し、他魚種による卵の捕食を促進させる

- ・ 小型三枚網（要特採）で、産卵床を守るオス親を捕獲する
- ・ 卵を守るオスがなくなると、ほとんどの卵がウグイやコイ等の他魚種に捕食される

● 浮上仔稚魚を捕獲する

- ・ 産卵床の上に浮上してきた仔魚と稚魚をタモ網（要特採）で捕獲する（浮上後3日程度は小さく群れている）



【小型三枚網】（要特採）

細かい目合の網の両側に、大きい目合の網を重ねた計3枚の網。上部にウキ、下部におもりがあり、水中で自立する。各産卵床の上に1基ずつ設置し、オスを捕獲する。（網が汚れてくると、網の存在を魚が認識しにくくなる事例あり。）

【駆除結果を記録しよう】

駆除結果を記録し、次の対策に活かすことが大切です

- ・ 駆除実施日、実施時間、実施人数、実施場所、駆除した個体の数、重量、捕獲方法等を記録しておく
- ・ 記録用紙は

【<http://www.naisuimen.or.jp/jigyoubass.html>】

からダウンロード可能

- ・ 全体の生息数が分かっていなくても、駆除数の変化を見ることで現在の方法が効果を発揮しているかどうか判断できる

【根絶のためには…】

長期的に外来魚を減らすためには、中大型魚の駆除だけでなく、繁殖を抑えることも必要です。卵や仔稚魚の駆除が十分に行えない場合には、未成魚にも重点を置いて捕獲する等、次の繁殖世代を増やさないという観点から防除方法を選択することが重要です。